

■2016年度 研究成果の公開状況

【学術論文】

1. Kimura, T., & Katayama, J. (in press). Regularity of approaching visual stimuli influences spatial expectations for subsequent somatosensory stimuli. *Experimental Brain Research*.
2. 小國龍治・大竹恵子 (印刷中). 児童用強み認識尺度と児童用強み活用感尺度の作成及び, 信頼性と妥当性の検討 パーソナリティ研究.
3. Otake, K., & Kato, K. (in press). Subjective happiness and emotional responsiveness to food stimuli. *Journal of Happiness Studies*.
4. 杉原聡子・米山直樹 (2017). 目標行動選定用シートを用いた短縮版ペアレント・トレーニングの試み 人文論究, 67.
5. 文瑞穂・米山直樹 (2017). 自閉スペクトラム症児に対する構造化を用いた介入 —音楽の模擬授業場面を対象に— 関西学院大学心理科学研究, 43, 33-39.
6. 荒岡茉弥・米山直樹 (2017). 自閉スペクトラム症児に対する宣言言語・要求言語の自発の促進に関する研究. 関西学院大学心理科学研究, 43, 41-48.
7. 登日温子・成田健一 (2017). 上手なあきらめができる人—社会的認知学習理論からあきらめ現象を捉える— 関西学院大学心理科学研究, 43, 75-84.
8. 箕浦有希久・成田健一 (2017). 自尊感情の複数回測定とその展望—測定方法と研究目的に注目して— 関西学院大学心理科学研究, 43, 1-18.
9. 辻道英里奈・植田瑞穂・桂田恵美子 (2017). 大学生の向社会的行動および共感性と親子関係との関連 関西学院大学心理科学研究, 43, 29-54.
10. Inoue, K., & Sato, N. (2017). Valuation of go stimuli or devaluation of no-go stimuli? Evidence of an increased preference for attended go stimuli following a go/no-go task. *Frontiers in Psychology*, 8, 474.
11. 庭山和貴・松見淳子 (2016). 自己記録手続きを用いた教師の言語賞賛の増加が児童の授業参加行動に及ぼす効果—担任教師によるクラスワイドな“褒めること”の効果— 教育心理学研究, 64, 598-609.
12. 庭山和貴・松見淳子 (2016). プロンプトによる教師の注目の増加が通常学級に在籍する自閉症スペクトラム障害のある児童の授業参加に及ぼす効果 行動分析学研究, 32, 55-62.
13. 加藤美朗・嶋崎まゆみ・松見淳子 (2016). スミス・マゲニス症候群の行動問題に対する理解と発達支援の検討 発達心理学研究, 27, 243-256.
14. 箕浦有希久・成田健一 (2016). 2項目自尊感情尺度を用いた状態自尊感情の測定—実験的に操作された場面想定法による妥当性の検討— パーソナリティ研究, 25, 151-153.
15. 佐藤暢哉 (2016). 共感性研究に齧歯類を対象とすることの意義 —神前・渡辺論文へのコメント— 心理学評論, 58, 295-298.
16. 鈴木麻希・永井成美・大竹恵子 (2016). HAQ-Cで評価した小学生の攻撃性と心臓自律神経活動、食生活、運動習慣の関連 子どもと心のからだ日本小児心身医学会雑誌, 25, 202-211.
17. Niwayama, K., & Tanaka-Matsumi, J. (2016). Promoting social interactions and responses to peer initiations of a child with autism spectrum disorder. *Psychology*, 7, 877-884.
18. 大森駿哉・片山順一 (2016). 行動・生理指標を用いたポジティブ感情の機能や状態の解明：拡張—形成理論とフローを中心として 人文論究 (関西学院大学文学部), 66, 51-68.
19. Nakajima, S. (2016). Running induces nausea in rats: Kaolin intake generated by voluntary and forced wheel running. *Appetite*, 106, 85-94.
20. 箕浦有希久・成田健一 (2016). 2項目自尊感情尺度を用いた状態自尊感情測定尺度の開発—妥当性に関する多側面からの検討— 感情心理学研究, 23, 78-86.
21. 金喬・米山直樹 (2016). 知的能力障害を伴う自閉スペクトラム症幼児に対する課題分析を用いた着替え指導 関西学院大学心理科学研究 (関西学院大学文学部総合心理科学科), 42, 13-18.
22. 西川若菜・米山直樹 (2016). 自閉スペクトラム症児に対するPECSを用いた要求行動の形成—エ

- ラー修正法の変更を加えた指導— 関西学院大学心理科学研究 (関西学院大学文学部総合心理科学科), 42, 7-12.
23. 里見香奈・成田健一 (2016). 「自己」にかかわる心理学的研究の計量書誌学的分析— わが国の学会誌に掲載された実証論文のタイトル分析:1980年- 2013年— 関西学院大学心理科学研究 (関西学院大学文学部総合心理科学科), 42, 25-32.
 24. 田宮めぐみ・米山直樹・松見淳子 (2016). 放課後等デイサービスで参加児童が集団活動中に示す離席行動に対する機能的アセスメント研究 関西学院大学心理科学研究 (関西学院大学文学部総合心理科学科), 42, 19-24.
 25. 山本亜実・大城未緒・南由歩・竹谷怜子・小野久江 (2016). 乗馬初心者に対する乗馬体験の心理的・生理的影響 関西学院大学心理科学研究 (関西学院大学文学部総合心理科学科), 42, 1-5.
 26. Kimura, K., & Katayama, J. (2016). Cooperative context is a determinant of the social influence on outcome evaluation: An electrophysiological study. *International Journal of Psychophysiology*, 100, 28-35.
 27. 山岸厚仁・佐藤暢哉 (2016). ラットの扁桃体基底外側核損傷が強化子の価値低減効果に及ぼす影響 人文論究 (関西学院大学文学部), 65 (4), 63-74.
 28. 松永昌宏・小林章雄・柴田英治・大竹恵子・大平英樹 (2016). 幸福感を高める心理学的介入による心身の健康の増進 *Medical Science Digest*, 42(1), 2-5.
 29. 三浦麻子・鳥海不二夫・小森政嗣・松村真宏・平石界 (2016). ソーシャルメディアにおける災害情報の伝播と感情: 東日本大震災に際する事例 人工知能学会論文誌, 31.

【書籍】

1. 大竹恵子 (編著) (2016). 保健と健康の心理学—ポジティブヘルスの実現— ナカニシヤ出版.

【学会発表】

1. 陳香純・影山美紀・遠竹美穂子・中島定彦 (2017). 飼育下のハンドウイルカの行動に及ぼす放水の効果 2017年度春季研究発表会(応用動物行動学会・日本家畜管理学会合同発表会).
2. 植田瑞穂・桂田恵美子 (2017). 1、2歳児が経験する達成・被賞賛状況についての予備調査 日本発達心理学会第28回大会.
3. 谷向みつえ・桂田恵美子・赤澤淳子 (2017). 施設入所児のアタッチメント表象と愛情ネットワークの特徴 日本発達心理学会第28回大会.
4. Sanada, M., Fuseda, K., & Katayama, J. (2017). EEG frontal alpha power asymmetry can evaluate temporal dynamics of our emotion. 24th Annual Meeting of Cognitive Neuroscience Society.
5. Fuseda, K., Matsubara, A., & Katayama, J. (2017). Sadness can be related to the approach motivation: Evidence from frontal alpha power asymmetry. 24th Annual Meeting of Cognitive Neuroscience Society.
6. 西村友佳・小川洋和 (2017). 潜在的態度の変化に対する魅力的な顔の効果 日本心理学会「注意と認知」研究会 第15回合宿研究会.
7. 白井理沙子・小川洋和 (2017). 視線の送り手の道德違反が注意誘導および選好判断に与える影響 日本心理学会「注意と認知」研究会 第15回合宿研究会.
8. Nishimura, Y., & Ogawa, H. (2017). Exposure to attractive faces modulates implicit moral attitude. The 2017 Annual Conference of the Korean Society for Cognitive and Biological Psychology.
9. 高橋友子・米山直樹 (2016). 新人看護職員の離職意向に関連する要因の検討 第36回日本看護科学学会学術集会.
10. 竹谷怜子・辻本江美・山本亜実・辻井農亜・白川治・小野久江 (2016). 大学生の抑うつ状態に対する対人関係カウンセリングの効果 第16回日本認知療法学会.

11. 山岸厚仁・佐藤暢哉 (2016). Oxytocin enhances rat's helping behavior for stranger. 日本動物心理学会第76回大会.
12. 佐藤暢哉・石井沙希 (2016). Effects of social interactions on spatial learning in a lattice maze. 日本動物心理学会第76回大会.
13. 湯川徳子・大竹恵子 (2016). 食物刺激呈示による感性満腹感は摂食量に影響するか 日本健康心理学会第29回大会.
14. 金田亜里沙・大竹恵子 (2016). 自身に対する楽観性と親密な他者に対する楽観性：母子間での比較 日本健康心理学会第29回大会.
15. 小國龍治・大竹恵子 (2016). 児童版強み認識尺度と児童版強み活用感尺度の作成及び信頼性と妥当性の検討 日本健康心理学会第29回大会.
16. 井上和哉・大竹恵子 (2016). 視覚的な感性満腹感の生起における注意の重要性 日本健康心理学会第29回大会.
17. 玉越勢治・片山順一 (2016). ミスマッチ陰性電位を指標とした聴覚情報処理の時間的側面における研究 第46回日本臨床神経生理学会学術大会. シンポジウム
18. 安枝貴文・小川洋和 (2016). 自己名に対する情動価—運動—一致性効果と自己表象の関係の検証 日本基礎心理学会第35回大会.
19. 白井理沙子・小川洋和 (2016). トライポフォビア喚起画像のスペクトラム特性が意識的気づきに与える影響 日本基礎心理学会第35回大会.
20. 廣瀬眞理子・高岡しの・庭山和貴・加藤美朗・松見淳子 (2016). 青年期発達障害者家族へのコミュニケーション支援プログラムの開発—自治体と協働する地域発達支援— 日本認知・行動療法学会第42回大会.
21. 植田瑞穂・桂田恵美子 (2016). 乳幼児期におけるポジティブ共感—1, 2歳児の行動についての探索的検討— 日本教育心理学会第58回総会.
22. 文瑞穂・米山直樹 (2016). 自閉スペクトラム症児に対する構造化を用いた介入—音楽の模擬授業場面を対象に— 日本行動分析学会第34回年次大会.
23. 荒岡茉弥・米山直樹 (2016). 自閉スペクトラム症児に対する宣言言語・要求言語の自発に関する研究 日本行動分析学会第34回年次大会.
24. 椎木泰華・川西舞・米山直樹 (2016). 知的能力障害を伴うASD児に対するトークン・エコノミー法の回顧的研究—従事行動または正反応に対応させて— 日本行動分析学会第34回年次大会.
25. 杉原聡子・金喬・米山直樹 (2016). 大学附属の相談所における保護者支援プログラムの検討 日本特殊教育学会第54回大会.
26. 杉原聡子・米山直樹 (2016). ADHD児の登校行動と宿題行動に対するトークン・エコノミー法による家庭内支援の検討 日本行動分析学会第34回大会.
27. 箕浦有希久・高橋伸彰・成田健一 (2016). 心理調査におけるSatisficing回答傾向(1)—紙筆版質問紙調査とWeb調査の比較— 日本社会心理学会第57回大会.
28. 白井理沙子・小川洋和 (2016). 道徳判断が視線による自動的な注意誘導に与える影響 日本社会心理学会第57回大会.
29. Kimura, T., & Katayama, J. (2016). The spatial expectation for subsequent somatosensory stimuli is modulated by regularity of approaching visual stimuli. 56th Annual Meeting of Society for Psychophysiological Research.
30. Fuseda, K., & Katayama, J. (2016). Effect of physical attractiveness of the opposite sex on P2 to irrelevant probe stimuli. 56th Annual Meeting of Society for Psychophysiological Research.
31. Naka, S., & Katayama, J. (2016). The Effect of the Task Type for the Distraction Effect. 56th Annual Meeting of Society for Psychophysiological Research.
32. 廣瀬眞理子・高岡しの・庭山和貴・加藤美朗・松見淳子 (2016). 自治体と協働する地域発達支援—青年期発達障害者家族へのコミュニケーション支援プログラムの開発—混合研究法によるアプローチ 第2回日本混合研究法学会学術集会.

33. Yasueda, T., & Ogawa, H. (2016). Movement-compatibility effect for the self and other people's names. The 31st International Congress Psychology.
34. Ueda, M., & Katsurada, E. (2016). The development of empathic behaviors in Japanese toddlers. The 31st International Congress of Psychology.
35. Tanimukai, M., Akazawa, J., & Katsurada, E. (2016). Patterns of Affective Relationships and Quality of life among Institutionalized Children in Japan. The 31st International Congress of Psychology.
36. Takaoka, S., & Tanaka-Matsumi, J. (2016). The Relationship of Humor Styles and Psychological Well-being. The 31st International Congress of Psychology.
37. Niwayama, K., & Tanaka-Matsumi, J. (2016). Effects of class-wide positive peer reporting on social skills and school liking of 4th grade children. The 31st International Congress of Psychology.
38. Mitsufuji, Y., & Ogawa, H. (2016). The contribution of personality impression to face-voice integration. The 31st International Congress of Psychology.
39. Minoura, Y., & Narita, K. (2016). Examining the test-retest reliability of the state and trait version of the Two-Item Self-Esteem Scale. The 31st International Congress of Psychology.
40. Fuseda, K., & Katayama, J. (2016). Effects of physical attractiveness of the opposite sex on heartbeat evoked potential in men. The 31st International Congress of Psychology.
41. 林朋広・佐藤暢哉 (2016). Effects of lesions of the retrosplenial cortex on tracing the learned route in the environment with small change. 第39回日本神経科学大会.
42. Sato, N. (2016). Episodic-like memory in rats: answering to an unexpected question about past self-behavior. 18th meeting of the International Society for Comparative Psychology.
43. 箕浦有希久・成田健一 (2016). 2項目自尊感情尺度を用いた自尊感情の変動性の測定 日本感情心理学会第24回大会.
44. 佐藤暢哉・稲岡慧 (2016). ヴァーチャル環境におけるルート知識の空間手がかりと主観的方向感覚との関係 日本認知心理学会第14回大会.
45. Niwayama, K. & Tanaka-Matsumi, J. (2016). Effects of positive peer reporting on social interactions of two children who rarely interacted with peers. Association for Behavior Analysis International 42nd Annual Convention.
46. Taketani, R., Tsujimoto, E., Yamamoto, A., Tsujii, N., Shirawaka, O., & Ono, H. (2016). IPC-Study 1: The Effectiveness of Interpersonal Counseling for Depression in Japanese Undergraduates. The 7th Asia Pacific Regional Conference of the International Association for Suicide Prevention.
47. Yamamoto, A., Taketani, R., Tsujimoto, E., Tsujii, N., Shirawaka, O., & Ono, H. (2016). IPC-Study 2: The Effectiveness of Interpersonal Counseling for Stress Coping in Japanese Undergraduates. The 7th Asia Pacific Regional Conference of the International Association for Suicide Prevention.
48. Tsujimoto, E., Yamamoto, A., Taketani, R., Tsujii, N., Shirawaka, O., & Ono, H. (2016). IPC-Study 3: The Effectiveness of Interpersonal Counseling for Impulsivity Response Inhibition. The 7th Asia Pacific Regional Conference of the International Association for Suicide Prevention.
49. 木村司・片山順一 (2016). 身体近傍空間および身体へ接近する視覚情報が後続する体性感覚事象の空間的予測に及ぼす影響 第34回日本生理心理学会大会.
50. 大森駿哉・片山順一 (2016). 2種類のパズルゲーム課題が脳波・自律系指標に与える影響の検討—ポジティブ感情および集中に注目して— 第34回日本生理心理学会大会.
51. 伏田幸平・片山順一 (2016). 異性の身体的魅力が無関連プローブ刺激に対する事象関連脳電位P2に及ぼす影響 第34回日本生理心理学会大会.

52. 小松丈洋・沼田恵太郎・佐藤暢哉・嶋崎恒雄・八木昭宏・宮田洋(2016). 不確実性がネガティブ感情に与える影響—SCCとNPVを指標として (2)— 第34回日本生理心理学会大会.
53. 沼田恵太郎・小松丈洋・嶋崎恒雄・佐藤暢哉・八木昭宏・宮田洋 (2016). 不確実性がネガティブ感情に与える影響—SCCとNPVを指標として (1)— 第34回日本生理心理学会大会.
54. 白井理沙子・小川洋和 (2016).無意識的処理過程に不快喚起特性が与える影響 日本心理学会「注意と認知」研究会第14回合宿研究会.

【その他（講演等）】

1. 米山直樹・廣瀬眞理子・高岡しの・庭山和貴・荒岡茉弥 (2016). 平成28年度神戸市青年期発達障害支援事業支援者支援研修プログラム事業 相談員研修会②.
2. 米山直樹・廣瀬眞理子・高岡しの・杉原聡子・庭山和貴・荒岡茉弥 (2016). 平成29年度神戸市青年期発達障害支援事業支援者支援研修プログラム事業 相談員研修会.
3. 片山順一 (2016). 第34回日本生理心理学会大会参加報告 人間工学, 52, 150-151. 日本人間工学会.
4. 米山直樹・廣瀬眞理子・高岡しの・杉原聡子・庭山和貴・荒岡茉弥 (2016). 平成28年度神戸市青年期発達障害支援事業支援者支援研修プログラム事業 相談員研修会.
5. 松見淳子・廣瀬眞理子・高岡しの (2016). 平成27年度神戸市青年期発達障害支援事業支援者支援研修プログラム事業「事例をとおして考える 青年期の発達障害のある方と家族の支援」.